

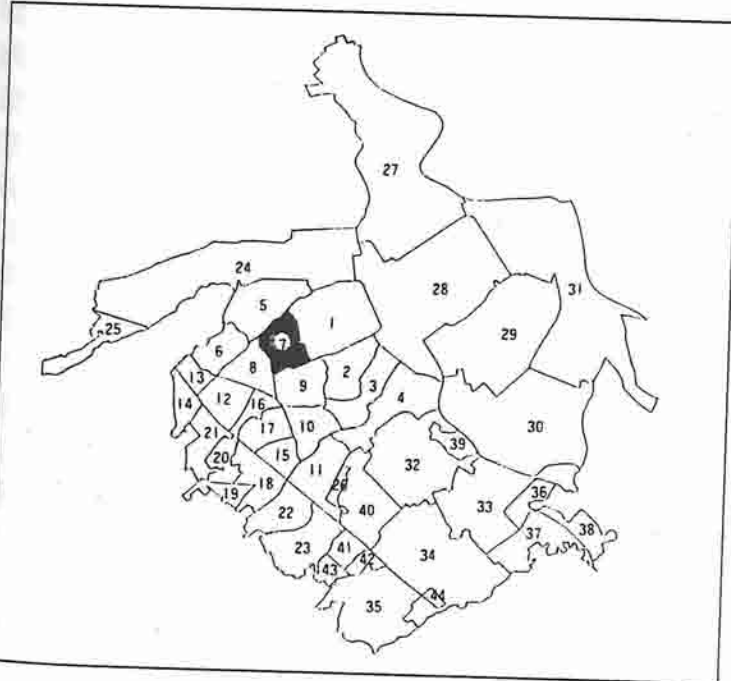
・概況

羽沢1丁目町会は、富士見市の北部に位置し、南側に東から西へ低地（谷底平野）が、またその周縁に段丘崖（緩急）と浅い谷（浸食凹地）があり、他の地域は台地（台地段丘）で形成されている。羽沢3丁目町会との境界には県道三芳・富士見線が通り、環境は、武蔵野台地と畑が調和した良好な地域である。昭和34年以前は家屋棟数（19棟）と少なかった。

水害は、県道三芳・富士見線沿いの畑（富士見郵政宿舍付近）が冠水する内水災害で、農作物に被害が見られる。

地震災害は、木造建物密集地が出火、延焼の危険性がやや高いと予想される。また、昭和30年代後半から段丘沿いに開発された住宅地には多くの擁壁があり、ひび割れ、崩落等の危険がある。

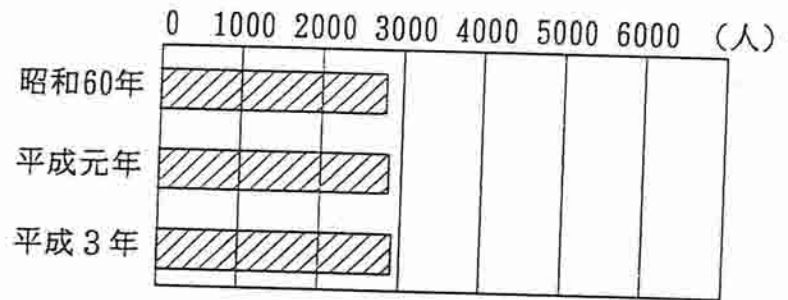
・位置図



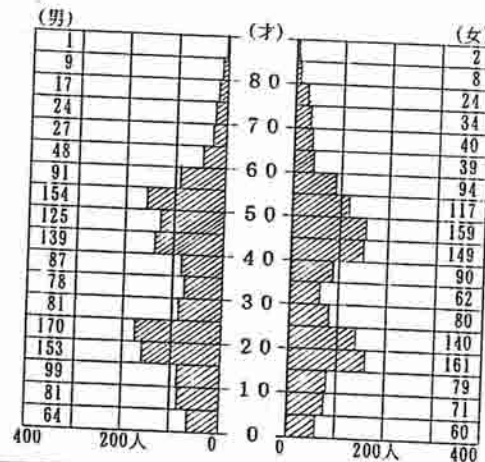
1. 基礎指標

・面積	0.215 km ²
・人口(平成3年10月1日現在)	
男	1,441人
女	1,399人
計	2,840人
・人口密度	13,209.3人/km ²
・寝たきり老人数	2人
・ひとり暮らし老人数	8人
・世帯数	902世帯

・人口推移

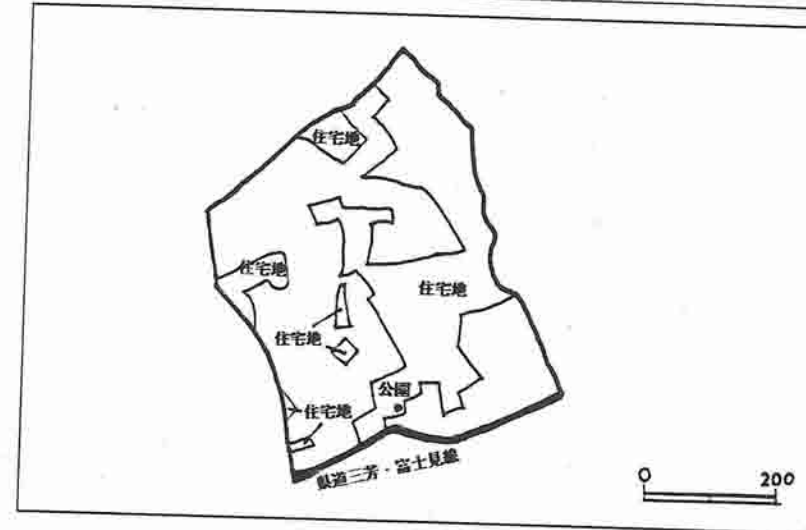


・年齢別人口(平成3年)

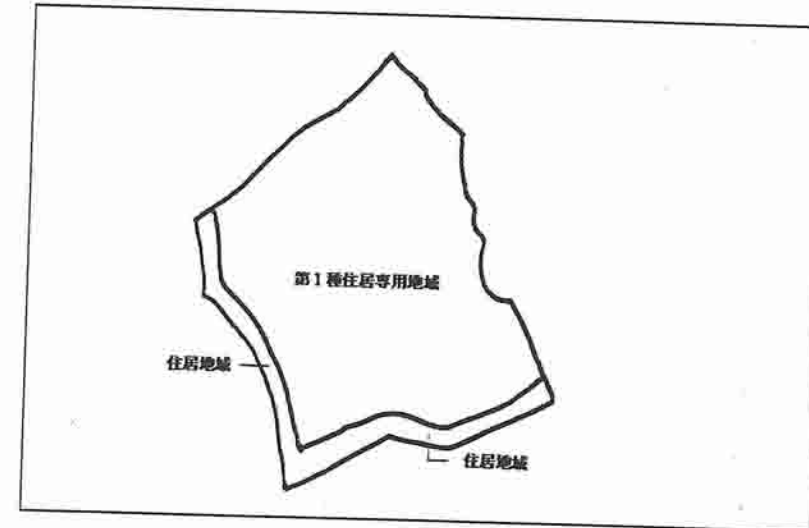


・商住工混在率住居系	94.3%
店舗系	3.9%
工業系	1.8%

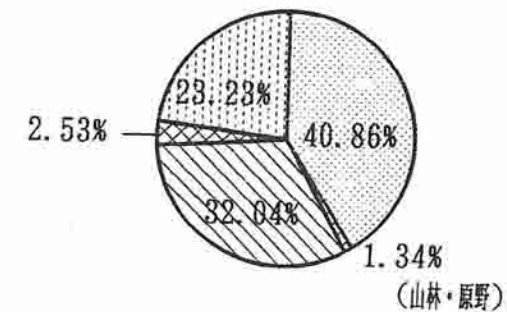
・町会現況図



・用途地域図



・土地利用現況



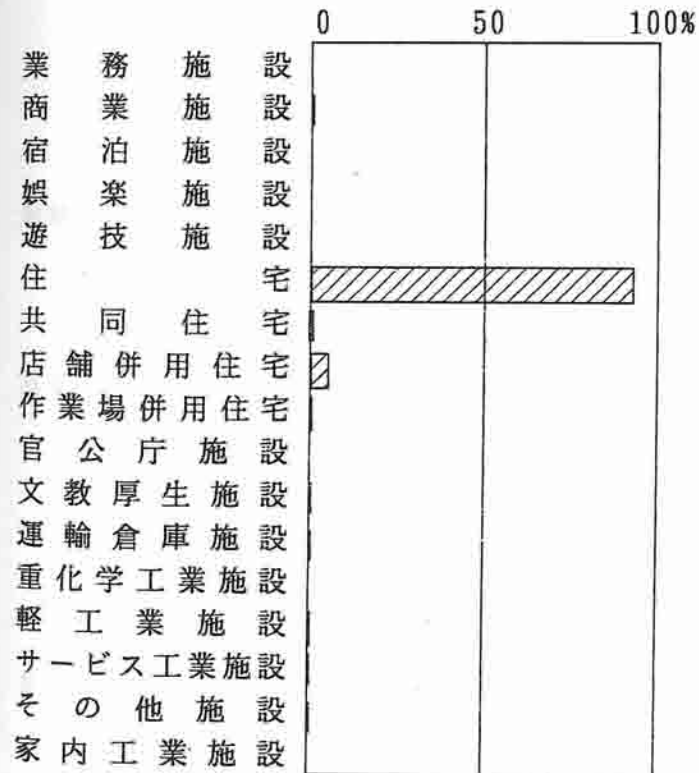
土地利用凡例

- 農地
- 山林・原野
- 市街地(宅地)
- 空地
- その他

2. 建物指標

・建物棟数	984棟	
・木造建物	930棟	
・非木造建物	54棟	
・建物面積	35,675.01㎡	
・木造建物	32,912.54㎡	
・非木造建物	2,762.47㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	92.5%	
・木造率	94.5% (930棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	19棟	
・同上率	2.0%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	172棟	18.5%
2階以上	758棟	81.5%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	52本	241.8本/㎢
・幹線道路率	3本	13.9本/㎢
・公共空地面積	890.0㎡	
・公共空地率	0.4%	
・1人あたり公共空地	0.3㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 羽沢1丁目児童公園	890.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	18本
・1消火栓あたり世帯数	50.1世帯/本
・消防水利貯水施設数	3 (1) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	1か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和 年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医 院	1か所	栗原医院
休日診療所	0か所	
警 察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

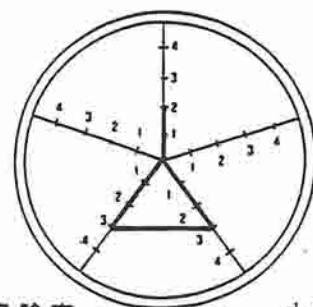
・内水災害危険度	2ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	0ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	低地 2	台地 1ランク
危険度	液状化危険度	" 1	" 0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、台地で硬く、浅い谷、低地で軟らかい。台地部で震度5(+) (強震の強い方)、浅い谷、低地で震度6(-) (烈震の弱い方) の地震が予想される。

10. 問題点の整理

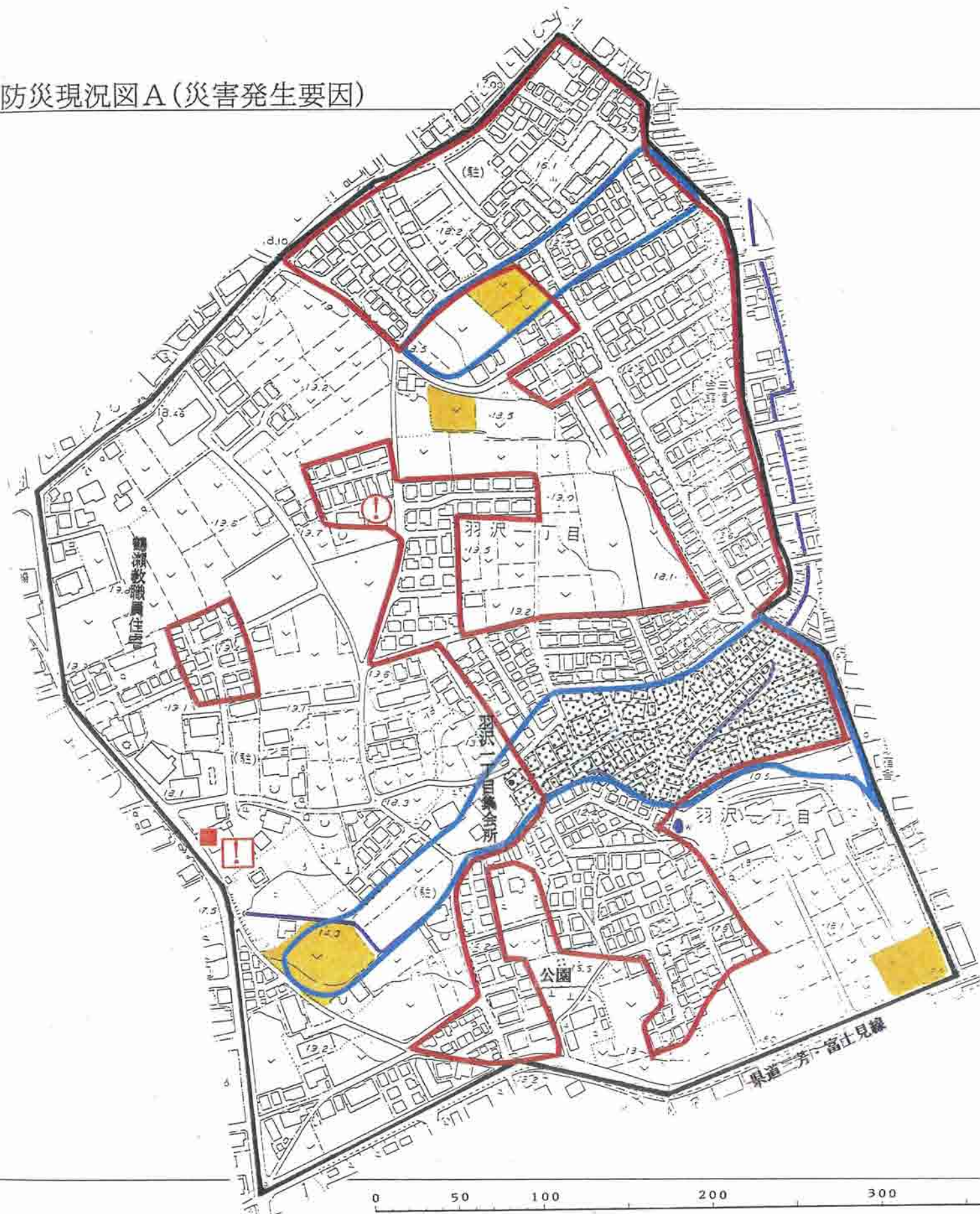
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	県道三芳・富士見線沿いの下水路の溢水。	1. 水防能力	水防施設は設置されていない。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件は、台地部では良いため、木造建物の倒壊の危険性は低い。しかし、低地部、浅い谷(1丁目2番地から4番地の住宅地)では地盤条件が台地部と比較して悪いので、注意を要する。	3. 消防能力	消火栓の数が世帯数と比較して少ない。低地部、浅い谷を盛土して宅地化した住宅地内の道路幅が狭いため消防車の消火活動に支障をきたす。
4. 出火危険	出荷の危険性がやや高い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	延焼の危険性は不燃領域率が50%~70%と見込まれるため延焼の恐れがやや高い。	5. 避難収容力	避難所は、町会内には無い。鶴瀬小学校、鶴瀬コミュニティセンター(羽沢2丁目、3丁目町会)を利用するのが現状である。 1人あたりの公共空地がないため収容力は低い。
6. その他の災害	住宅地での造成による擁壁の倒壊の危険がある。		

11. 解決の方向性

地震火災が発生した場合、消防能力、防火能力が低いため、住宅密集地では混乱をきたす恐れがあるため、住宅密集地内の消火栓の増設、消防車の消火活動を妨げる道路の改善が望まれる。
避難可能な道路(主に幹線道路)は、隣接する羽沢2丁目町会の避難所へ通じるため、道路に沿ったブロック塀の倒壊、また商店街にある自動販売機の転倒による道路の狭隘化を防ぐ対策指導が必要と思われる。
住宅地内の擁壁の異常についても事前に定期的に点検する必要がある。

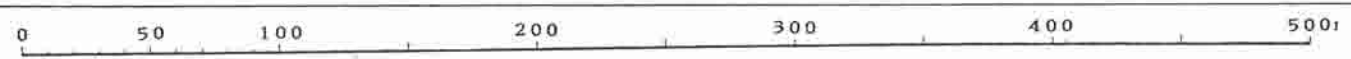
※ 想定震度 台地5(+) (強震(強))
低地6(-) (烈震(弱))

防災現況図A(災害発生要因)

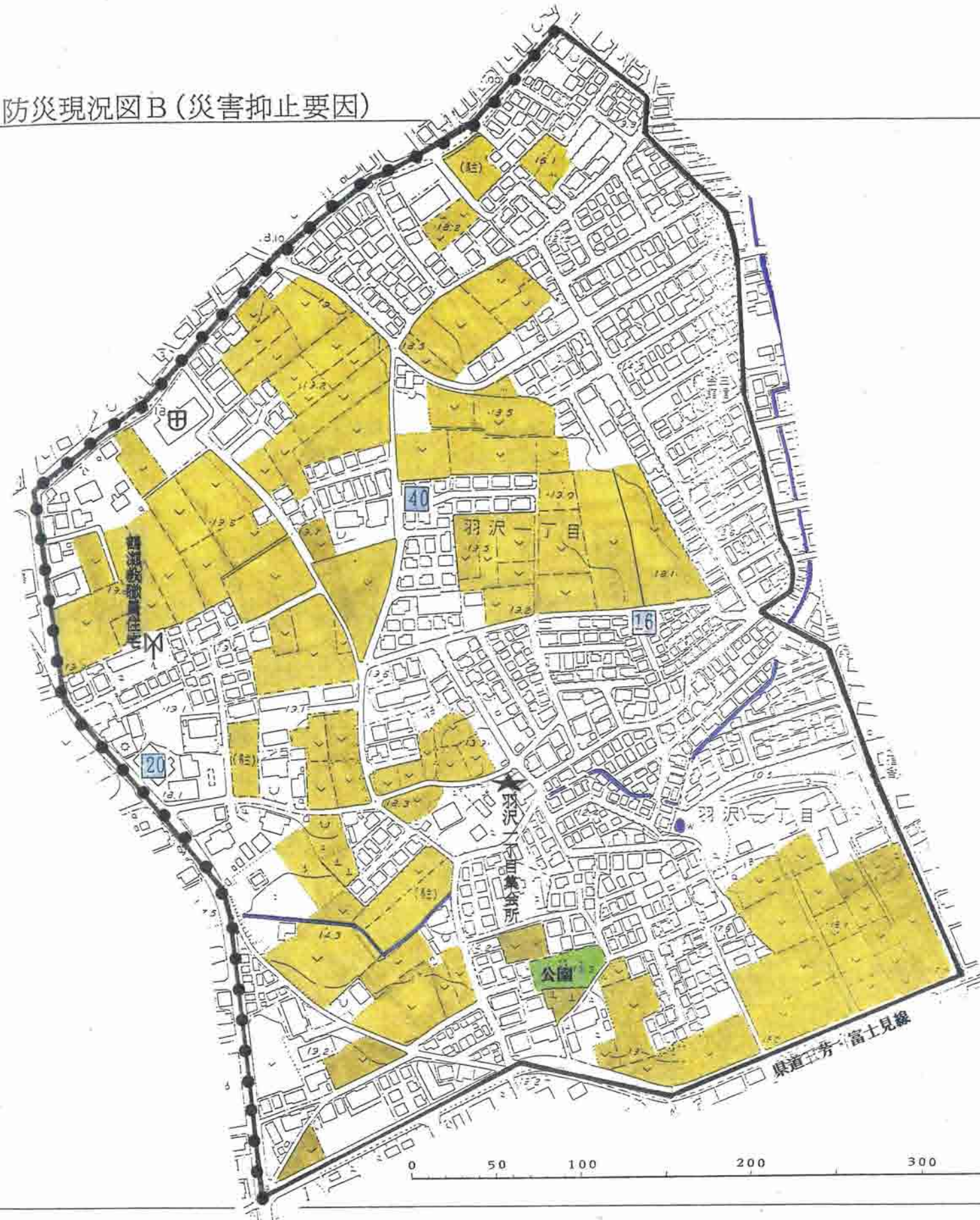


凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⊙	危険物屋内タンク貯蔵所
◇	危険物屋外タンク貯蔵所
⊠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
⬜	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚡	急傾斜地崩壊危険区域
⬜	盛 土
⬜	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

